

今月号のキーワード | 内部統制2年目は「統合ログ管理」が課題解決の糸口に！

特集

日立ソフトが内部統制2年目の課題を解決

日立ソフトは自社の内部統制対応などの経験を体系化しお客様へ提供しています。このたびのニュースレターでは、2年目に突入した内部統制の3つの問題に注目、中でも特に重要な「ログ管理」について紹介をします。

Topics | 日立ソフト、日立情報、日立システムの3社がCSR講演イベントを合同で開催
お知らせ | 当社ルビーセンタ長、正村 勉がRubyセミナーにて講演

特集

日立ソフトが内部統制2年目の課題を解決 「統合ログ管理ソリューション」で適正なログ管理を実現



吉村 雅典(左) Masanori Yoshimura

産業システム事業部
第3産業システム本部

内部統制ビジネスの責任者
お客様からの課題を纏めソリューション化を図る。

増井 章二(右) Akitsugu Masui

全国営業本部
マーケット開拓推進部

ソリューション展開のスペシャリストとして様々な切り口からお客様へ課題解決策を提案。

米国SOX法対応のノウハウを活かす

2008年から始まった日本版SOX(J-SOX)は多くの上場企業が初年度を終え、今年で2年目を迎えています。

日立ソフトは、日立製作所の米国SOX法対応にともない、日立グループの一員として米国SOX法を自ら経験し、そこで培ったノウハウをベースに、プロジェクトの計画策定から文書化、有効性の評価及び不備の特定と改善といった内部統制整備における一連の流れに沿って、企業の内部統制整備を支援する「内部統制整備ソリューション」を提供し、100社を超えるお客様のお手伝いをしてきました。

人海戦術で乗り切った初年度

日本版SOX法の初年度は、ほとんどの企業が監査法人や

コンサルタントまた社内の専門部隊の指導を受けながら、ほぼ手探りに近い状況で内部統制整備の作業を進めてきました。2年目では文書化作業は初年度よりも軽減されるものの、テスト・評価作業については初年度と同等の作業が求められることとなります。さらに、2年目となった今、専門部隊は解散し、それぞれの部門で対応する必要が出てきました。その結果、通常業務に内部統制対応業務がプラスされる事になり、業務への負担が増大しています。人海戦術で乗り切った初年度の内部統制対応ですが、2年目にはIT整備を通して「脱！人海戦術」の省力化をめざしていかなければなりません。内部統制対策が本業に重く押し掛かかかるお客様の多様な課題に対応していくうちに、日立ソフトでは3つの発見がありました。これを解決していくことが2年目以降に向けた足がかりとなるのではないかと日立ソフトは考えました。(図1)

3つの発見とは？

1. 力技の対応業務

様々な機器から出されるログの収集、厳密なIDおよび特権IDの管理、文書化や運用評価業務、作成した文書の変更、そのテストへの対応等を手作業で行っています。専任スタッフを増員できない為、各現場担当者の負担が増大し、本業への負荷増大が危惧されています。

2. 試行錯誤のExcel運用

IT統制により見直した基幹システムなどからデータを抜き出しExcelで加工しているが、このExcelの統制が不可欠。2年目にはこれらIT統制の細かい部分への指摘がどうなるか不安を感じています。

3. 半信半疑の統制ポリシー

複数の法規則に対応する為に、それぞれの対応策を実施したが、統制する部分が重複する所が出てきています。また個別最適で実施してきたセキュリティ対策が結果的にその場しのぎの対策になっています。

以上の項目が、お客様の声を聞きながら発見した3つの問題であり、2年目以降に向けて解決していかなければならない課題です。

省力化をテーマにソリューションを体系化

日立ソフトでは、3つの発見に基づく課題を解決する為に、省力化をテーマにソリューションを体系化し、「内部統制ソリューション総合パンフレット」を作成しました。(*)

パンフレットには、情報システムの担当者でなくても分かりやすいように、技術的なソリューション紹介よりはむしろお客様の問題提起に焦点を当て、その解決法を記載しました。



*: 内部統制ソリューション総合パンフレット概要

日立ソフトでは、3つの問題の中から「力技の対応業務」におけるログ管理が今後最も注目されるキーワードとなると考えます。以下では、「ログ管理」に焦点を当てて日立ソフトのソリューションを紹介します。

「統合ログ管理ソリューション」

今までは、ログはエラーなどの障害もしくは正常に動いた記録として管理され、クライアントとサーバのログを別々に管理しても問題がありませんでした。しかし内部統制で言うログ管理とは、IT運用が適正に行われているのかを保証するものであり、「適正に」という言葉の中にはクライアントから行った操作がサーバ上で「どう動き、どんな結果を出したのか?」「その操作は適正な人によって行われたのか?」などを把握する必要があり、それぞれのログの整合性を確認しなければなりません。ログはパソコン、サーバ、データベース、ネットワーク機器、業務アプリケーションと様々なシステムから出力されるため、非常に煩雑な作業になります。今までは情報システム部の専任者が目で見えて判断し手作業で突合処理をしていましたが、2年目に入り専任部隊は解散となり、さらにIT統制が進むにつれログ管理の対象となる機器やシステムは増加していきます。

そこで「統合ログ管理」の考え方が課題解決の糸口となります。代表的な課題として、ログ収集の難しさ、ログに関する分析工数、ログの保管があります。ログの収集は様々な機器、システムから出されますので、手作業で分析するにしても、まず一箇所に集めなければなりません。これも手作業で行う

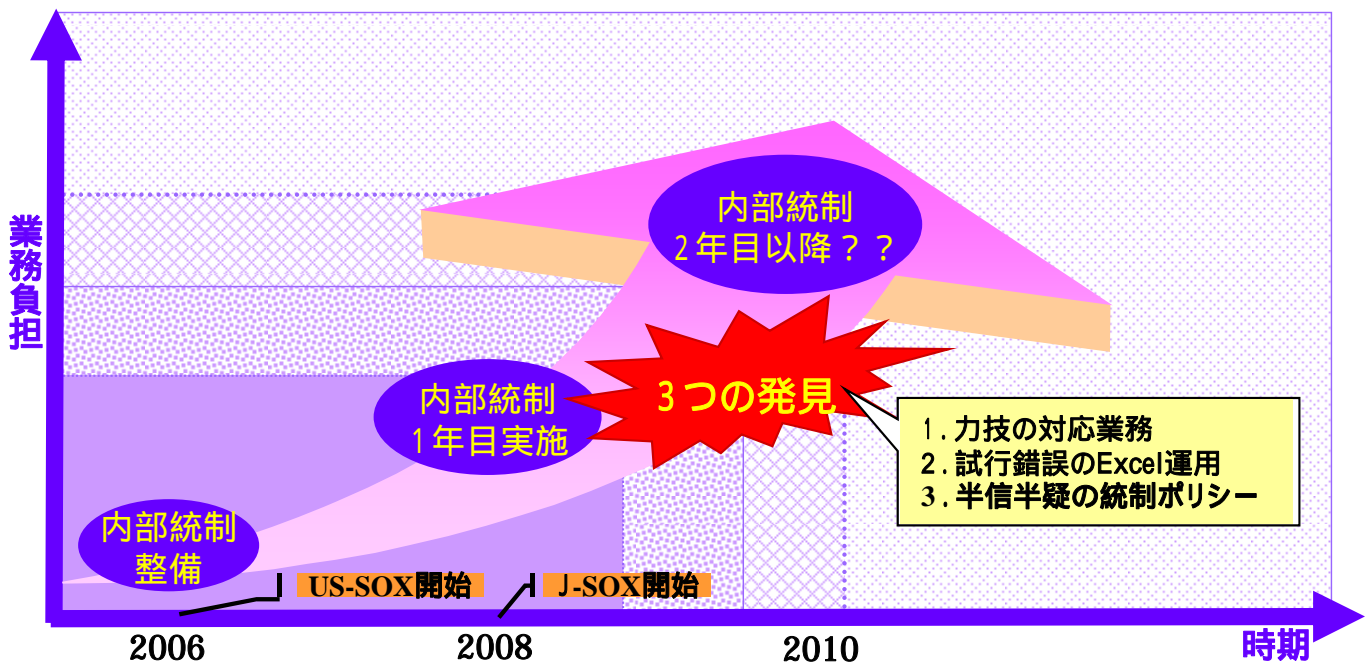


図1: 内部統制の初年度を経験して、2年目の3つの発見(課題)

事が多く、集めたログを分析しレポートの形にして動作が適正である事を確認します。分析はユーザの観点、システムの観点など様々な角度から行いますので、専門的な作業となります。これにより、工数と費用が増大する上、収集・分析したログはその後の証跡確認などにも利用されるため、保管をしなければなりません。日々、増加していくログを保管するには紙でもデータでも拡張性のある大きな保管場所が必要になります。そこで日立ソフトはログを漏れなく集め、自動で分析、レポート出力でき、データ圧縮技術により容量を小さく、しかも直ぐにデータ利用ができる「統合ログ管理ソリューション」を提供しています。本ソリューションは今まで企業内で有効活用されていなかったログを可視化し、IT基盤に潜むリスクや脆弱性を早期発見できます。(図2)

シートの信頼性を高める為に「スプレッドシート統制ソリューション」を提供し、財務報告の信頼性を向上させます。

さらに「半信半疑の統制ポリシー」の問題には、「IT業務プロセスの改善コンサルテーション」、「セキュリティポリシーの統一コンサルテーション」を提供、内部統制の仕組みを見直し身軽な仕組みを生み出すコンサルティンなどをご用意し、お客様の様々な課題解決をサポートします。

今後、国際会計基準(IFRS)は早ければ2015年に強制適用される見通しです。IFRS適用にあたり社内の業務ルールの変更が必要となり、各企業では会計システムに留まらず、各種業務プロセスやITプロセスの見直しの必要性に迫られます。IFRSへの対応を行うには、内部統制対応も忘れてはならない重要な検討項目となる中で、ITシステムを使って省力化を図り内部統制を行う事がますます重要になっていきます。日立ソフトの「内部統制ソリューション」は定評のあるセキュリティ分野の製品やサービス、そして日立ソフト自らが内部統制整備で培ったノウハウを活かし、内部統制に必要となるソリューションを豊富に準備し、お客様の抱える多様な課題に的確にお応えし、業務のIT化やITの整備を通してお客様の企業価値向上を支えていきます。

その他日立ソフトの内部統制ソリューション

ログ管理のほか、「力技の対応業務」である「ID/特権IDの管理業務の増大」を解決する「統合認証・アクセス管理ソリューション」を提供し、特にサーバ操作ができる特権IDについてその正当性の担保などを実現しています。また、「試行錯誤のExcel運用」では、通常活用しているスプレッド

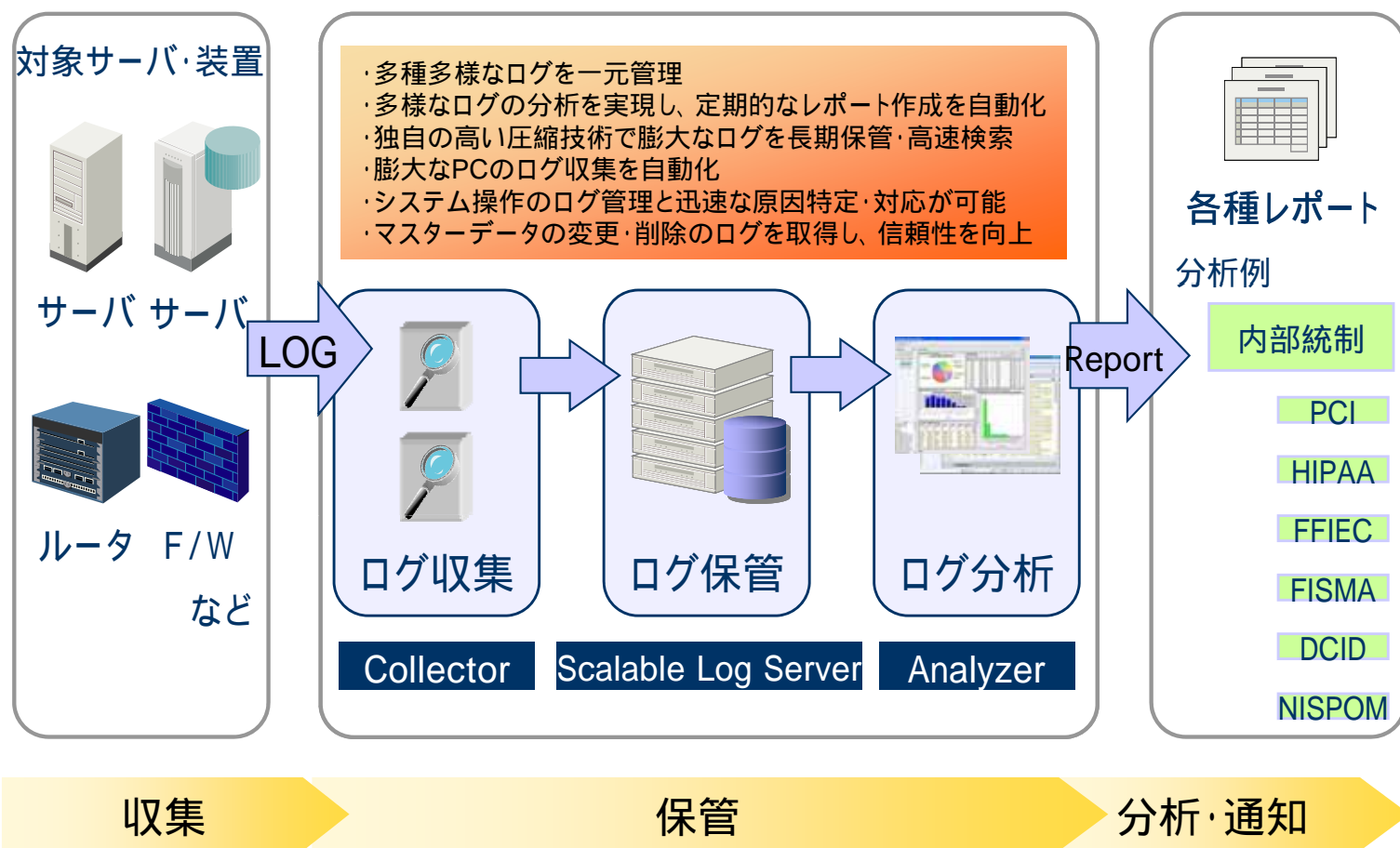


図2: 統合ログ管理ソリューション概要

最近のニュースリリース

当社の最新およびこれまでのニュースの詳細は、当社ホームページのニュースリリース
<http://hitachisoft.jp/news/index.html>にてご覧頂けます

ラティス、日立ソフトと3Dデータのセキュリティ分野で協業拡大

日立ソフトから新たにSaaS型3Dデータセキュリティサービス「活文 デジ活ガード」の提供を開始

日立ソフト、Rubyシステム開発に対応する専門組織「Rubyセンタ」を設立

中小規模のシステム開発案件を中心にビジネス展開を進め、関連団体との連携を強化しRubyの普及を促進

歯科用レセコンASPサービス「DentalASP」を一新

歯科診療所・クリニックではカルテ作成やレセプト請求業務をASPの形にて簡単・低価格で利用可能に

TOPICS

日立ソフト、日立情報、日立システムの3社がCSR講演イベントを合同で開催

日立ソフトのCSR活動の一環として、日立ソフト、日立情報、日立システムの3社は、各社社員を対象に協働し、「ソーシャル・イノベーター育成講座～いまこそ、私たちの手で社会変革を」と題するCSRをテーマとした講演イベントをシリーズで開催します。その第1回として、特定非営利活動法人「TABLE FOR TWO International」の理事・事務局長である社会起業家、小暮真久氏による講演会および氏を囲んでの社員参加型トークイベントを、日立ソフト本社講堂にて開催しました。当日は約100名が参加し、3社にとって意義のあるイベントとなりました。



お知らせ

当社ルビーセンタ長、正村 勉がRuby 세미나にて講演

野村総合研究所木場総合センターN棟1階大会議室にて「Rubyビジネスセミナー ～エンタープライズに向けたRubyの可能性～」が2009年12月10日に開催されました。

近年ビジネスでの利用機会が急速に拡大しているRubyに着目したビジネスセミナーで、Rubyの開発者まつもとゆきひろ氏の基調講演のほか、先進的なビジネス利用、または教育事業に取り組む国内企業が講演しました。当社からはルビーセンタ長である正村が当社事例を交えた講演を行ないました。当日は聴講者が105名の定員を超え大変好評でした。



商号	日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
本社	〒140 0002 東京都品川区東品川4丁目12番7号 Tel:03 5780 2111(大代表)
設立年月日	1970年9月21日
従業員数	5,492名(2009年9月末)
売上高	1,658億円(連結)(2009年3月期)
事業内容	『システム開発』、『サービス』、『プロダクト&パッケージ』の3つを主な事業領域とし、加えて『情報処理機器』の開発・販売、そしてトータルの『システムインテグレーションサービス』の提供
主要製品・サービス	機密情報漏洩防止ソリューション「秘文」、指静脈認証システム「静紋」、電子ドキュメントータルソリューション「活文」、インタラクティブ電子ボード「StarBoard」、地理情報システム「GeoMation」、統制IT基盤提供サービス「SecureOnline」他
認証取得等	ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)、ISO9001(品質マネジメントシステム)
主な子会社および 関連会社	日立ビジネスソリューション(株)、日立ソフトシステムデザイン(株)、キャブカード&サービス(株) (株)アイネス、(株)ビジネスブレイン太田昭和、(株)DACS、(株)クラステクノロジー